

学報

スポーツ文化の風を発信する

NITTAIDAI

37

2014.Spring



日体大の女子力

巻頭 学長エッセイ「女子力の発信拠点—「日体大の女子力」を考える—」 1

平成26年度事業計画の基本方針について — 2

特集■日体大の女子力 — 3

学生会運動部女子祝勝会 — 5

女子学生☆解体新書 — 7

「体育科学をリードする」 ～大学院・研究科の取り組み～ — 11

日本体育大学の社会貢献推進事業 — 13

クラブ情報●平成25年度[学生会運動部優勝団体一覧] — 15

NEWS●2013年度下半期ニュース — 16

INFORMATION●dot.NITTAIDAI — 19

学生会運動部女子祝勝会(平成26年2月25日)





特集

日体大の女子力

日体大の強み。

それは、多様な力、個性が刺激しあう環境。

体育学部に加え、児童スポーツ教育学部、保健医療学部が始動。

次の時代を見据えて、日体大は新たな一步を着実に歩み出している。

グローバル化が加速する時代。

2020年東京オリンピック・パラリンピック開催も決まり、一翼を担う本学も、他国や民族を認め合い、いっそう国際社会に貢献していくことが求められる。

国内に目を転じれば、少子高齢化のなかで、若者から高齢者まで、個人がそれぞれの立場で力を発揮することが期待されている。

とりわけ、注目を集めているのは、女性の活躍だ。

生涯スポーツを愛し、あるいは仕事を持ち、

社会で担う役割がますます大きくなっていくだろう。

本学はこれまでも、数々の女性アスリート、職業人を輩出し、性別の垣根なく可能性を追求できる環境を誇ってきた。

新学部の開設により、さらに幅広い人材が揃うことになる。

多様な力、個性が刺激しあい、ともに高めあっていく校風が、本学の強みである。

今回の特集は、本学で学び活躍する女性たちにスポットを当てた。

しかし、新たな時代を担う全学生に向けたエールであることは言うまでもない。



学長 エッセイ

女子力の発信拠点

「日体大の女子力」を考える



日本体育大学
日本体育大学女子短期大学部
学長 谷釜了正
たにがま りょうしょう

近年喧しく「女子力」という言葉が使用されるようになりました。それは精神力と表現力を備えた「女子」の「力」を意味するようです。

これは社会が女性たちの潜在的な力に期待し、男性の分野でも女性の力を必要としている証です。かねてからスポーツ界は他の分野に比していち早く女性のパワーを認め、男性専有の種目でも女性に明け渡してきました。「かわわき」女性観はいまでは完全に払拭されたといえるようです。ロンドン及びソチのオリンピックでも日本選手は女性アスリートの方が多く出場しています。スポーツ界はすでに女子力の発信拠点になっているといわねばなりません。したがって女性のアスリートと指導者の双方を率先して養成してきた本学から、「女子力」を発信する意義は大きいものがあるといえるでしょう。



平成26年度事業計画の基本方針について

日本体育大学・日本体育大学女子短期大学部

少子高齢化が進行するわが国では18歳人口が減少し高等教育への進学が相対的に減少傾向をみせていることから、各大学は国公立、私立を問わず、多様な入試改革を行うための方策を講じて学生確保に注力している。これに加えて体育及びスポーツの分野では、有名私立大学をはじめとした諸大学で関連分野の学部及び学科の新増設が全国的規模で相継ぎ、この分野の専門大学として最も長い歴史と伝統を有する本学においても学生確保の問題は看過できない状況にある。全国的に指導者を輩出してきた本学はこのような状況を危機として受け止めねばならない。優秀な学生を全国から確保するための入試の在り方と改善を引き続き図るとともに、平成25年4月開設の児童スポーツ教育学部、26年4月開設の保健医療学部においても優秀な学生を確保するための入試の在り方と改善を図ることが喫緊の課題となっている。

いっぽう、本学は2016年に創立125周年を、2020年に東京オリンピック・パラリンピックを迎える。この節目の年に合わせて短期的、中期的に事業を計画し、これを推進していかねばならない。

そこで、このような本学を取り巻く社会環境の変化に対応して本学が将来にわたって持続的に発展を遂げるために、建学の精神を体現しつつ、理事会が推奨する基本方針「選手強化」「国際化」「ワンファミリィ化」を踏まえて、効果的な事業計画の具体的な基本方針を以下において策定するものである。

1 適切な学生数を確保する。

(1) 入試方法の多様化を図り、安定した学生の数とアドミSSIONポリシーに合うより優秀な学生を確保する。

(2) 全国的な規模での学生の確保

(3) 運動能力はもとより、学力の高い学生の確保

(4) 首都圏以外の地域からの受験者増加推進施策の検討

(5) 地域ブロックAO入試における地方入試会場実施の検討

(6) 転退学生の防止を図る。

・現状の分析に基づく防止策の検討と策定

2 児童スポーツ教育学部の円滑な運営を図る。

(1) 設置計画履行状況調査(A・C・アフターケア)について対応する。

(2) 学生の授業上の充実を図る。

(3) 教育実習・保育実習のための施設を確保する。

(4) 入試の改善を図るとともに、募集活動を強化する。

(5) 女子短期大学の募集停止と将来の廃止に関する情報を学生、保護者及び卒業生に対して周知徹底を図る。

3 保健医療学部の円滑な運営を図る。

(1) 設置計画履行状況調査(A・C・アフターケア)についてA・C実施プロジェクトを設置し対応する。

(2) 学生の授業上の充実を図る。

(3) 入試の改善を図るとともに、募集活動を強化する。

(4) 保健医療学部の開設に伴い制定された諸規程と既存諸規程との整合性を点検する。

4 「学力」、「就業力」の向上を図る。

(1) 「学力」と「就業力」の向上を意図した2013年カリキュラム(平成25年度体育学部新入生から適用)の円滑な運用を図る。

(2) 就職率向上を図る。

① 企業就職率の向上

② 教員志望者のレベラップのための各種スキルアップ講座を実施

③ 児童スポーツ教育学部向け小学校教員対策プログラムを実施

④ 保健医療学部向け国家試験対策を早期から実施

(3) 日体力を向上させる取組みを実施する。

① 日体力育成プログラムの構築

② T・A制度の活用

③ 日体スキルアップセミナーを全学で実施

(4) 英会話力を向上させる。

(5) F・D及びS・Dに積極的に取り組むなど教育内容及び教育環境の充実を図る。

(6) 屋内外の運動施設の修繕を図る。

・既存施設の整備

(7) FDの推進のために、公募型授業イノベーション支援プログラムを実施

(8) 新学務システムを活用し授業評価結果の検証を実施

(9) 職員の資質向上のために、大学の内外の研修会に職員を参加させるなどS・Dの一層の充実を推進

(10) 屋内外の運動施設の修繕を図る。

・既存施設の整備

5 2020年の東京オリンピック・パラリンピックに積極的に協力する。

(1) 本学出身のオリンピックを60人以上出場させる。

(2) 上記選手のマルチサポートを編成する。

(3) パラリンピックの指導者を養成する。(パラリンピアンをサポートする)

(4) 競技力向上のための科学的な研究を推進する。

6 スポーツ競技力の向上(選手強化)を図る。

(1) 理事会との連携の下で、大学の政策として重点種目及び強化選手に関する基本方針を策定する。

(2) 奨学生制度の効果的な運用を図る。

(3) スポーツ局の運用の改善を図る。

7 教育・研究活動の一層の推進を図る。

(1) 研究室体制の編成と機能化を推進する。

① 保健医療学部開設に伴う研究室体制の追加編成

② 学際研究の推進

③ 授業担当コマの平等化(専任教員による教育の充実)

(2) 研究施設・設備の二元管理を推進する。(管理運営の円滑化)

・効果的な研究活動を推進するために、円滑な管理・運営を実施

(3) 研究組織の連携を強化する。

・総合スポーツ科学研究センターを軸に研究組織(大学院、体育研究所、トレーニングセンター)の連携を強化

(4) 研究活動を推進する。

① 科学研究費助成事業(科研費)応募に際し、大規模予算の獲得に向けた研究プロジェクトの立ち上げ

② 研究助成に基づく研究の公表を義務付け

(5) 出版物の質向上を図る。

① 日本体育大学スポーツ科学研究について、これまで以上の論文投稿を促し、質の向上を推進

(6) 体育研究所及びスポーツ・トレーニングセンターで発行していたジャーナルに関し、発行内容、形態を変更

(7) 学生の情操教育のためにキャンパス全体の博物館化を推進する。

① 博物館資料の収集と展示の推進

② 資料の整理と保管のための環境の整備

(8) スポーツに係る国際交流の推進を図る。

(9) 国際スポーツ関係学部(仮称)の設置計画を策定する。

① 必要な教員の補充

(2) 体育学部から国際スポーツ関係学部(仮称)の独立の検討

(3) 円滑な国際交流を促進するため、国際交流センターの立ち上げを検討する。

(4) JICAとの連携を促進し、多数の学生及び卒業生の海外(開発途上国)派遣を推進

① 派遣希望者、海外留学生のための語学教育(主として英会話(教室)設置

② オリンピック候補選手、青年海外協力隊員への希望者、オリンピックボランティア希望者、海外留学生のための語学教育(主として英会話(教室)設置

(5) 諸外国の体育系大学との提携を図る。

(6) 本学独自のスポーツ交流を推進する。(開発途上国へ学生及び卒業生を派遣する。)

9 効果的な広報活動の展開を図る。

(1) ホームページの充実と有効活用を図る。

(2) 大学案内「NITTA IDA」およびサブパンフレットを充実させる。

(3) 学生募集に関する広報活動を推進する。

(4) メディアを活用した広報活動の促進とマスコミ対応に努める。

(5) 学内広報活動をし、情報の共有化を徹底する。

(6) 本学学生の就職支援に関する広報活動を側面的に支援する。

(7) 受験生、保護者、同窓生等に対して、積極的な情報発信に努める。

(8) 児童スポーツ教育学部・保健医療学部の情報を発信する。

(9) 学生募集・広報マーケティングに繋げる施策を展開する。

10 校友会を組織し、積極的な活動を推進する。

(1) 本学支援団体としての「校友会」の設置に向けて、本学同窓会、保護者会及び学友会の組織間の調整を図る。

(2) 校友会として募金活動を展開する。

11 学生の学習・生活の一層の支援と環境の整備を教職協働により図る。

(1) 学生食堂を中心とした食育を推進する。

(2) インターンシップを促進させる。

(3) 健康管理対策のより一層の充実を図る。

① 健康管理センター及び健康管理体制(健康診断・健康診断事後措置健康及び保健相談等)の更なる充実

② 「スポーツクリニック」の開設と活用

12 社会との連携をより一層充実させる。

(1) 本学独自の総合型地域スポーツクラブの開設に向けて検討する。

① スポーツ教室を開設し地域との連携を推進

(2) 全国のスポーツクラブとの連携を検討

(3) 学生のスポーツ指導者の派遣依頼に積極的に対応する。

(4) 教育研究情報の公開を促進する。

13 併設校とのより一層の連携を図る。

(1) 併設校との施設の有効活用を促進する。

(2) 併設校へ教職員・学生を派遣する。

(3) 併設校の学生の受け入れを促進するための方策を講ずる。

14 自己点検・評価を実施する。

以上



体育・スポーツ、教育はもとより、研究、健康・福祉、地域貢献、国際貢献など、これからの日体大が担うべき領域はますます広がっていきます。その新展開の原動力として期待されているのが女子学生の皆さんです。

本学にとどまらず、スポーツからビジネス、教育・研究まで、社会のあらゆるシーンで女性の活躍に注目が集まっています。

今号の特集では、OGや現役アスリートのコメントを通して、日体女子の「強み」を明らかにします。

男子学生も負けてはいられない!?

日体女子スリット

現在、文部科学省委託事業「女性アスリート育成・支援プロジェクト」において、女性特有の課題やコンディショニング（体調管理）法についての研究に取り組む須永先生。研究の道に進んだのは学生時代の挫折がきっかけだった。

壁にあたってもしなやかに強く。
ひたむきに努力する才能を持っている。

須永 美歌子

児童スポーツ教育学部准教授



アスリートはもちろん、
すべての女性のために

ドクターストップで
陸上を断念

逆境を克服して、
研究者の道へ

ひたむきに努力すれば
夢は必ず叶う

文部科学省「女性アスリート育成・支援プロジェクト」の3つの柱の1つ「女性アスリートの戦略的強化に向けた調査研究」において、「月経周期を考慮したコンディショニング法」をテーマに研究しています。女性ホルモンの周期的な変化により、体や心に影響を及ぼすわけですが、時期や変化の度合い、要因など明らかにすることが多く、これを体系的にまとめることによって、女性アスリートの競技力向上につなげていこうという研究です。もちろんアスリートだけでなく、一般人にとってもスポーツは健康増進に欠かせません。女性が効率的にトレーニング効果を獲得していくためには、どのような方法が適切なのか。現場に活かせる研究を展開していきたいと思っています。

私は子どものころから純粋にスポーツが好きで、体育教員をめざして日体大に入學しました。トレーニングの科学的根拠が学べるスポーツ生理学の授業も当時から興味がありました。部活は陸上競技部（跳躍）に所属し合宿所で生活していました。そんな学生時代の私に転機が訪れます。大学2年生の時に大病を患い、医師から運動をしてはいけないと宣告されました。今は完治しましたが、日体大にいるのどうしてスポーツができないのだろう。悔しくてずいぶん泣きました。1年生のうちから熱心に教員採用試験の勉強に取り組んでいたのに、結局は、体育教員の夢を諦めなければならぬ状況になり、「何で私なの？」と恨めしい気持ちでいっぱいになりました。

選手から主務へ。みんなが辛く厳しいトレーニングをしているのに、自分がなにもできないのが申し訳ない。なにか役に立ちたいという思いから、図書館の本を片端から読んで運動生理学の勉強をしたのが、いまの仕事のきっかけだったかもしれません。スポーツは実技だけではなく、講義で教えることもできる。そのことに気づいて、卒業時には大学院に進学する道を選びました。そんな経緯もあって、教えることについてはとてもこだわりがあり、難しいことをいかにわかりやすく教えるかというのを常に意識しています。また、学生の知的探究心をくすぐるような情報を提供できるように、常に情報収集を欠かさず、伝え方を工夫することを心がけています。

真面目で純粋。バイタリティーがある。日体女子は、努力する才能に優れています。それは、スポーツはもちろんのこと、社会に出てから、あるいは家庭を持つてからも、あらゆる場面で発揮することができ、視野を広げ、高い志をもつて、いろいろなことに取り組んでほしいと思います。ひたむきに努力すれば、必ず夢は叶うはず。そして、たとえ困難な場面に直面しても、しなやかに前向きに挑むことができるのも日体女子の強みでしょう。脆く折れてしまうのではなく、バネのようにしなやかに受け止め、それを乗り越えて成長していくことができる。スポーツで培った経験のおかげだと思っています。皆さんの競技や将来の人生で活かすことができる授業を行っていきます。学び、考え、素敵な女性をめざしてください。

■プロフィール／須永 美歌子（すなが みかこ）

体育学部体育学科卒。大学院体育科学研究科体育科学専攻博士前期課程修了。博士（医学）。モットーは、常に先の目標を立て、それに向けて日々努力すること。そのため、毎日があつという間に過ぎてしまうとか。今はコーヒーを淹れながら過ごす時間が束の間の息抜き。



日体大の女子力

日体女子スピリット

スポーツをしたり、話し相手になったり、子どもたちとイキイキとした毎日過ごす石井さん。子どもたちが日々変化、成長していく姿を間近に接することができるのが、小学校教諭の醍醐味だという。その素晴らしい笑顔を見るためなら、どんな努力も厭わない。

**辛い練習や実習も女子トークで乗り越える。
団結力と他人を思いやる気持ちは誰にも負けない。**

石井 沙綾香
新宿区立四谷小学校教諭



**スポーツ女子は、
女の子にも男の子にも人気**

小学校教諭の楽しさは、ほぼ一日を担当するクラスの児童と過ごせることです。音楽と図工以外のすべての教科を教えています。スポーツ好きの男の子とは部活の話をしたり、女の子とはファッションや買い物の話をしたり、分け隔てなく気軽に接することができるのが、スポーツ女子である私の強みでしょうか。

スポーツも勉強も、始めはできなかったことが、頑張っただんだんできていく過程が、自分のことのようにうれしいです。また、運動会や学芸会など、先生方と協力しながら企画や運営を行う行事も多く、二つのことを作り上げていく喜びはスポーツに通じるものがあります。

小学校教諭になつてからずっと低学年の担任でしたが、今年初めて6年生を受け持ちました。これまでの経験を自信に、中学校でも頑張つてほしいと思っています。

**一輪車に乗れた！男の子の
笑顔が忘れられなくて**

もともと養護教諭になりたいという夢をもつて日体大に入学しました。もちろん、体育やスポーツが大好きという気持ちはいまでも変わりません。

小学校教諭を目指そうと思ったのは、大学4年生の時に、小学校でボランティアをしたことがきっかけです。そこで、自閉症の男の子と接する機会がありました。一輪車に乗れるようになりたいということで、何日も何日も一緒に練習しました。「やった、うれしい！」できた時のその子の喜びの声、表情、仕草はいまでも忘れません。子どもとのそばにずっといて、成長を間近に見ることができると、小学校教師に強い憧れを抱くようになりました。日体大で養護教諭の免許をとり、卒業後さらに通信教育で小学校教諭になるための勉強をして、採用試験に合格。小学校教諭になつてからも、体育やスポーツ、子ども

もについてなど、日体大で幅広く学んだことが役立っています。

**終わった後の女子ゴハンが
頑張る励みには？**

日体大ではラクロス部に1年間在籍。朝練、昼練と忙しい日々を過ごしました。また、体育の実技の授業では、跳び箱や平均台が苦手で、仲間と一緒に先生にお願いして、空き時間に指導していただいたこともあります。負けず嫌いなんです。その後に力を入れたのは養護教諭になるための看護臨床実習でした。病院の各診療科を1ヶ月かけて回り、ナースの仕事を見学したり、患者さんと身近に接することができて貴重な経験になりました。診療に立ち会った際に、人体模型や実際の患部の写真を見て、ダウンしてしまったことも。勉強している立場の私が、看護師さんのお世話になつてしまいました笑。

やはり、仲間と過ごした時間が、日体

大での一番の思い出です。辛い時も、終わった後ご飯やスイーツを食べに行こう！とみんなで励ましあいながら乗り越えました。

**仲間、困っている人は
放つておけない**

団結力、挑戦心、芯の強さ。日体女子の強みはたくさんあります。そして食べ物、ファッション、恋の話が大好きなのは普通の女子と同じ……。

そこで、あえて日体女子の特長は？と聞かれると、私は思いやり、仲間や他者を思う気持ちだと思います。私も、障害を持つ小学生との出会いからこの仕事を指しましたが、困っている仲間や頑張っている人を放つてはおけないんです。ですから、ガッツが余計に輝いて見えるのではないのでしょうか。

■プロフィール/石井 沙綾香(いしい さやか)

体育学部健康学科卒。日体荏原高校出身。学生時代はラクロス部での活動のほか、地元のバドミントンのクラブチームに所属。いまは忙しい仕事の合間にジムで汗を流しリフレッシュしている。昨年、同小学校で開催された全国小学校社会科研究協議会東京大会ではオリンピックを題材に研究授業を行った。





華咲け! 日体女子

平成25年度学友会運動部女子祝勝会が2月25日、東京・世田谷キャンパス大会議室で行われました。会には女子全40部のうち、昨年度日本一など優秀な成績を収めた29部の代表、部員など約120名が参加。松浪理事長に続き、来賓である森喜朗元内閣総理大臣、2020年東京五輪・パラリンピック組織委員会会長、武田良太防衛副大臣がそれぞれ祝辞を述べられました。女子学生同士が部の枠を超え、互いの戦績を称え合う姿も会場内では見られるなど、終始和やかなムードの中行われた今回の祝勝会。森先生からも「是非とも来年度以降も続けられるように」とエールを送られ、参加した部員たちは新年度への活動に向けて意気込みを見せていました。

学友会運動部女子祝勝会



■学友会運動部女子祝勝会 参加運動部

体操競技部	軟式野球部
水泳部	ライフセービング部
ラグビー部	自転車競技部
バドミントン部	トライアスロン部
柔道部	チアリーダー部
剣道部	アルティメット・チーム
相撲部	スカッシュ同好会
レスリング部	インラインホッケークラブ
フェンシング部	ダブルダッチサークル
スケート部	エアロビクス同好会
ウェイトリフティング部	セパタクロー同好会
少林寺拳法部	フィンスイミングクラブ
アーチェリー部	タッチラグビーサークル
トランポリン競技部	アクアスポーツ研究会
カヌー部	



女子部員に聞きました

「日体女子を漢字で表すと?」「部の雰囲気・モットー」

笑

レスリング部

浜田 千穂

体育学科4年
日本工業大学駒場高校

道場に入れば練習に集中し、道場を出たら女性らしく社会の一員であることを意識する。このオンオフの切り替えが好結果を生み出すにあたり、大切な要素であると部員全員が認識しています。「笑」という文字については、意識が高い練習に取り組む中で、常に笑顔でいることを忘れないのが日体女子学生の良さだと思います。

男

ラグビー部

岡田 みどり

体育学科卒業
横須賀学院高校

精神的にもたくましく、女性的な面を持ちながらも男性に負けないぐらいの精神力、根性を持っている。女性でありながら、ある面は男性(?)。これが日体女子学生の姿だと思っています。女子ラグビーの部員数は多くはありませんが、その分をチームワークの良さでカバーしています。日本一連覇へ、今後も後輩たちに精進してほしいと願っています。

信

エアロビクス部

上田 真穂

社会体育学科卒業
小野学園女子高校

女子が多く、雰囲気も明るい中で日々活動しています。常にそれぞれの意見を出し合うことを尊重しながら、練習時から踊ることの楽しさを心身に表現することを部員全員が心掛けています。「信」という文字については、日体女子学生は自分を信じ、仲間を信頼し、夢に向かって努力する姿勢の学生が多いことから選択しました。

健

軟式野球部

小池 真理

体育学科卒業
横浜商科大学高校

「健」。体力面はもちろんですが、精神面でも他大学に比べ、健やかな学生が多いのが日体女子学生の特長ではないでしょうか。就職活動の場などでは、その健やかさやたくましさを実感することが多くありました。私たちの部は、全員が明るく積極的に日々の練習に取り組み、強い団結力の下で競技の発展に取り組んでいます。

望

トランポリン部

佐竹 玲奈

体育学科2年
星陵高校

日体女子学生は周囲の期待に応えることが出来る選手が多いです。自他の「望み」に対して、日頃の練習からコンディションを整え、技術を磨くことを怠らない、ぶれることのない強さを持っていると思います。トランポリン部としては、今後もチームワークを高め、苦しい時こそ声を掛け合っていく雰囲気を作りだしていきたいです。



輝

土井畑 知里

体育学科2年
帝塚山学院高校

男子選手の強さやたくましさに対し、女子選手には強さとともに美しさも求められます。普段の生活から試合の場を意識した美しさを追求している日体女子学生は多いです。トランポリン部は下級生は上級生をサポートし、逆に上級生は下級生に声かけを徹底するなど、皆で協力し合い練習の雰囲気を作りだしているのが特長です。



魅

水泳部(飛び込み)

吉田 佳世

体育学科卒業
清陵情報高校

私たちは個人競技ですので、当然ライバル心を持ちながらも、選手たち同士が互いにチームであることを意識し、思いやりを持つことを大事にしています。また明るく常に笑顔で団結力があることも自慢です。「魅」は日体女子学生は自分の競技だけでなく、他競技からも多くを学び、常に魅力的であることを意識していると思います。



輝

少林寺拳法部

稲川 真里

体育学科卒業
茅ヶ崎北陵高校

「輝」という文字を選んだ理由として日体女子学生はいつでも自分を磨き上げ、日々努力を積み重ねており、未来へ向けて輝きを放っているという点です。少林寺拳法は礼法が何よりも大事とされています。後輩たちにも普段の生活から相手を敬う気持ち、感謝する気持ちを忘れないで今後の活動に繋げてほしいです。



ON★キャンパスでは直球勝負。 動きのカナメ、足元に個性が。

髪型

短め
55.9%
長め 41.7%
その他 2.4%

髪長い学生は「ボニーテール(1つ結び)」で授業を受けることが多い。やっぱり動きやすさが一番。

Pick Up

はげしく動いても邪魔にならないように1つ結び
(なぎなた同好会)

Pick Up

ショートでも出来る前髪やわちゃん♡
(ハンドボール部)

制汗スプレー

石けん
26.7%
シトラス 11.1%
フローラル 5.9%
その他 56.3%

清潔感のある石けんの香りが1番に!中にはローズや桃などT H E 女の子な香りも!

Pick Up

「動きやすさ重要! 半そで短パン!」という強者も!
(ソフトボール部)

ジャージの色

黒
65.3%
グレー 12.2%
紺 10.8%
その他 7.2%

普通の黒のジャージがトップ。冬は温かさが大事! 汗をかいてもすぐ乾く! 体を冷やさない! 動きやすいがモットー。

化粧

しない
77.6%
する 22.4%

やっぱり!? 高かった「しない率」。そんな中でもダンス部とダブルタッチサークルは半分以上が「する」派と回答。

タオル

青
24.3%
ピンク 21.9%
白 11.8%
その他 39.3% (黒・赤・黄色・水色・カラフル 等)

僅差で日体ブルーの勝利! だけどやっぱり女の子♡ピンクも2位にランクイン。

バレーボール部
貴島 未紗都
体育学部 健康学科 4年

香り

石けん
13.9%
柔軟剤 6.9%
シャンプー 4.9%

シャイなためか回答数が少なかったこの質問。汗臭さ! 男臭さ! というT H E 日体大の香りを求める女子も!

プチ情報

ブランドとしてはナイキが多め。他はアディダス、ミズノ、プーマ、ニューバランス等

靴購入時のポイント

デザイン
38.9%
フィット感 31.9%
機能性 18.4%
その他 9.4%

スポーツは足元から。そこは慎重に選びたい、ということでデザイン重視がトップ。ココにこだわりが。

靴の色

黒
22.9%
白 21.5%
赤 14.6%
その他 36.5% (ピンク・青・黄・オレンジ・グレー・紺)

サッカー部は、軽さ、履き心地など機能重視のコメントが。一番個性が発揮できるところなのでこれからも注目。

機能を重視しながらもこだわりが!

髪型、ジャージなどでは、機能性やシンプルさを重視した納得の回答が多かった一方、靴ではこだわりが。日体生の運動靴はまさに三者三様! 色やアレンジなど、個性を感じる回答が多く見られました。あなたも自分色に運動靴をアレンジしてみたいはかが?

ハンドボール部
細江 みづき
体育学部 体育学科 4年

ダブルタッチサークル
林 玲衣
体育学部 体育学科 2年

チアリーダー部
瀬脇 春菜
体育学部
社会体育学科 4年



OFF★気分もスタイルも切り替えて、とことん女子を追求したい



ダンス部
清水 麻紀
体育学部 武道学科 4年

ファッション系統は?

カジュアル系
59.7%
きれいめ(お姉さん)系
16.7%
古着系 6.3%
その他 17.3%

中にはジャージ一筋という強者も!。さすが根性あります。似合っているればそれがイチバンだね。

ネイル

興味ある
64.6%
ない 35.4%

ネイルをしている学生は少ないものの興味があると答えたのはなんと半数以上!やっぱり部活があるとね...

服装

- ①トレーナーパーカー
- ②スキニーパンツ
- ③セーター(ニット)

カジュアルながらも大人っぽさや女の子らしさを追求。シンプルイズベスト!着たい服を着る!という声もカッコイイ。

Pick Up

ロングスカートが好き。キュルくて可愛いし足も隠せるしー石二鳥♡
(チアリーダー部)

Pick Up

いかにかっこよくするかが勝負。いろんなジャンルにチャレンジ!
(ダンス部)

ファッションリーダー

①雑誌のモデルさん

- ②田中 美保
- ③友達

図書館には、スポーツ誌以外にもファッション雑誌がちらほら。女子力UPの勉強にも日体大の図書館は最適!

買い物スポット

渋谷
49.7%
原宿 14.9%
横浜 9.4%
その他 26%

学校からも近い渋谷が1位にランクイン!遊びも部活も頑張るのが日体生の良いところ!



ラクロス部
松野 菜々
体育学部 体育学科 4年



なぎなた同好会
山本 美咲
体育学部 武道学科 2年

Pick Up

ブーツ+インソールで足長効果♪
(新体操クラブ)

Pick Up

身長高いけれど普通にヒール。でも歩きやすいから基本はスニーカー
(ダブルダッチサークル)



サッカー部
繁 静里香
体育学部 体育学科 4年



新体操クラブ
保坂 日菜
体育学部 体育学科 3年



ソフトボール部
岡野 翔子
児童スポーツ教育学科
児童スポーツ教育学科 2年

靴

①スニーカー

- ②ショートブーツ(ムートン含)
- ③ヒール(べたんこ含)

頑張ってヒールという声が多いもののやはり履きやすさは大事。足を長く見せる工夫もポイントのよう。



ダブルダッチサークル
榎本 正恵
児童スポーツ教育学科
児童スポーツ教育学科 2年

休日のヘアスタイル

- ①ストレート
- ②ゆる巻き
- ③その他

Pick Up

普段の練習などではキツく結んでいるので、それを休ませる意味でもOFFは下ろしています
(新体操クラブ)

パーマをかけている学生がちらほら。簡単にON・OFFの差をつけられるのでパーマは人気みたい。

ハンドボール部
細江 みづき
体育学部 体育学科 4年



ファッションの参考

雑誌
54.5%
店頭 32.3%
テレビやネット 13.4%

意外にも店頭のコーディネートをチェックしている子が多い!ファッションのアンテナはとっても敏感。



チアリーダー部
高橋 美公
体育学部 体育学科 4年



剣道部
高野 実咲
体育学部 武道学科 2年



バレーボール部
宮城 果歩
体育学部 体育学科 4年

よくいくお店

- ①秘密♡
- ②ルミネ
- ③マルイ

Pick Up

太ももが入らない!日焼けして色黒になるからパステルカラーが似合わない!
(ラクロス部)

Pick Up

肩幅が入らない!体型がしっかりし過ぎて可愛い服が似合わない!
(チアリーダー部)

私服の悩み

①足の太さ

- ②肩幅の広さ
- ③コーディネートでの悩み

厳しいトレーニングのタマモノ。鍛え上げた身体をどう美しく見せるかが共通の悩み!

ON・OFFの切り替えはやっぱり気を遣う

スポーツ女子とは言え、オシャレが気になるのは当然。ON・OFFの切り替えはできるだけ簡単にしたいけれど、特に悩むのはスポーツ体型をどうするかという問題。ユニフォームならばとってもカッコイイけれど。それでもやっぱりヒールで背伸びしちゃう!?

Olympic Games

[]はソチ五輪における競技結果

スノーボード

子出藤 歩夢 (ねでふじ あゆむ)

体育学科2年。北海道出身。2013年にスペインのシエラネバダで開催されたワールドカップで銀メダルを獲得。日体大進学後も数々の国際大会で活躍。2014年1月の米国グランプリでは日本人1位で予選を突破、今季W杯第一戦で4位に入った実績が評価されてオリンピックの出場権を獲得した。

[男子ハーフパイプ予選出場]



本人のコメント
自分にとって夢の舞台に立つことができ、この上ない喜びです。日体大の現役学生として出場していることは常に意識していました。悔いが残る結果となり、応援してくださった皆さんには申し訳ない気持ちです。プレッシャーの中で、コースに出てからは気持ちが高ぶり、伸び伸びと滑ることができたと思います。2018年の平昌大会(大韓民国)に向け、これからの学生生活において、一から計画を練り直して練習に励みます。

スノーボード

青野 令 (あおの りょう)

社会体育学科2年。愛媛県出身。2006-07シーズンにはワールドカップで3連勝。日本人男子として初めてワールドカップの総合優勝を成し遂げる。2009年には日本人としては初めて世界選手権を制し、同年のワールドカップで2度目の総合優勝。2010年のバンクーバー五輪では9位入賞を果たす。

[男子ハーフパイプ予選出場]



本人のコメント
2回目の五輪ということもありリラックスして臨むことができました。日体大の代表として出場できたことをとても嬉しく思っています。満足できる滑りができず、期待に応えられなかったことは残念でなりません。この悔しさをバネに、次大会はメダルを狙いたいと思います。まずは大学でしっかり勉強すること、そして技術を広げるための新しいスポーツにも挑戦したい。4年後に向けて日々の努力を積み重ねていきたいと思っています。



スピードスケート

藤村 祥子 (ふじむら しょうこ)

宝来中央歯科所属。体育学科卒。北海道出身。2013年8月のビホロ100キロデュアスロン(ラン20キロ、自転車80キロ)で総合優勝。2013年12月のソチ五輪代表選考会では、会心のレースで3000メートル、5000メートルの2冠を達成し、初のオリンピック代表入り。

[女子3000m15位、女子5000m10位]



ソチオリンピック・パラリンピック2014には、トリノ2006の3名、バンクーバー2010の4名を上回る、7名の本学学生・関係者が参加した。残念ながら思うような結果とはならなかったが、社会体育学科2年生 青野令、体育学科2年生 子出藤歩夢の2名の現役学生が出場するなど、今後に期待をつなげる大会となった。

ソチ冬季五輪に学生・卒業生7名が参加

アイスホッケー

近藤 陽子 (こんどう ようこ)

SEIBUプリンス ラビッツ所属。短期大学部体育科卒。青森県出身。NHLのオタワ・レイダースにて38試合に出場、3ゴール10アシスト13ポイントをマーク。世界選手権など数々の国際経験を積み、2013年までに日本代表として出場した試合数は最多記録の「59」。五輪出場は長野以来2回目。

[女子アイスホッケー8位]



スピードスケート

上條 有司 (かみじょう ゆうじ)

日本電産サンキョー所属。体育学科卒。長野県出身。主に国内で活躍し、2010年はジャパンカップの500メートルで優勝。2011年全日本距離別選手権大会の1000メートルでは2位に入り表彰台に立つ。2013年は12月に行われたソチ五輪代表選考会の500メートルで4位に入り、初のオリンピック出場を決めた。

[男子500m20位]



ショートトラック

坂爪 亮介 (さかづめ りょうすけ)

タカショー所属。体育学科卒。群馬県出身。2011年の冬季アジア大会は500メートルで銅メダル、5000メートルリレーで銀メダルを獲得。2012年の全日本距離別ショートトラック選手権大会1000メートルで優勝するなど名実ともに日本のエースに成長。悲願の五輪出場を果たす。

[男子1500m予選出場、男子1000m予選出場]

Paralympic パラリンピック

アルペンスキー

小池 岳太 (こいけ がつた)

セントラルスポーツ所属。社会体育学科卒。長野県出身。トリノ、バンクーバーに続く3回目の出場。年4回の海外遠征をこなし、20~30の国際試合に参戦。2013年のW杯では回転8位、滑降8位と順位を上げた。さらにスペインで開催された同年の世界選手権では、大回転で7位の好成績を収めている。

[男子スーパー大回転9位、男子スーパー複合9位、男子大回転9位]



Sochi 2014

ソチ(ロシア)を舞台に、2014年2月7日から23日までの17日間開催。冬季史上最も多い87の国と地域から選手が集い、7競技98種目が行われた。日本勢は選手113名、役員135名が参加。計8個(金1、銀4、銅3)のメダルを獲得し、1998年の長野大会の10個に次ぐ結果となった。パラリンピックは2014年3月7日から16日まで開催され、日本から選手20名、コーチ・役員等35名が参加した。



パラリンピック開会式 「集団行動」を 清原伸彦名誉教授が指導

開会式で、ロシア国旗、パラリンピックのシンボルマークが鮮やかに形づくられ、会場の大歓声を浴びた。これを指導したのは、本学の清原伸彦名誉教授である。昨年9月、式を演出する海外のプロデューサーから声がかかった。日体大の集団行動の映像を見たことがきっかけだという。

五輪、パラリンピックはもちろん、海外での指導も初めて。清原教授は「まさかオファーが来るなんて想像もしていなかった」と話す。126人のロシア人を正しい姿勢から歩き方で徹底的に指導して開会式に臨んだ。

「集団行動を通して、思いやりの心を学んでほしい。他の国でも誘いがあればぜひやってみよう」と夢がふくらむ。日体大スピリットが世界の架け橋となることだろう。

清原伸彦 名誉教授

水球部監督を務め、21年にわたり国内公式戦で376連勝の偉業を成し遂げる。体育発表実演会での集団行動を45年間指導する。

スポーツとはなにか？ 人や社会のためにどうあるべきなのか？ 悩みや疑問を抱いたら、スポーツ哲学の門をたたいてほしい。

<体育科学研究科 博士前期課程 体育科学コース スポーツ文化・社会科学系>

スポーツは人間が行う営みである。そこでは、喜びや感動がある一方で、当然さまざまな悩みや葛藤も生まれてくる。競技そのものや社会について疑問を抱くこともあるだろう。考えることで、人は成長し、スポーツは進化する。身近な問いから、人やスポーツの本質に導いてくれる「スポーツ哲学」の世界について、関根正美教授に紹介してもらった。



PROFILE

関根正美 教授

筑波大学大学院博士課程体育科学研究科体育科学専攻満期退学。博士(体育科学)。岡山大学教育学部講師、准教授、大学院教育学研究科教授を経て現職。日本体育学会(「国際誌」編集委員)、日本体育学会体育哲学領域(「体育哲学研究」編集委員)、日本体育・スポーツ哲学会(理事、編集委員長)ほかにも所属。ハンス・レンクをはじめとするスポーツ哲学を中心に、スポーツ倫理学、生涯学習をテーマとした研究にも取り組む。

大学時代、専攻として西洋哲学を学ぶ一方、卓球部に所属していました。競技をやっていると、当然苦しいことがあります。単位にもならないし、お金にもならないし、クラスメートが勉強やアルバイトをしているときに、なぜ自分は練習や試合をしているのだろう。でも、自分のはめり込んでしまっている。その魅力はなんだろう。こうした悩みや疑問と、もっと強くなりたいという希望を抱きながら、日々部活動に励んでいたわけです。

— 先生がスポーツ哲学の道に進んだ理由はなんですか？ —

日体大という環境で オリンピック研究に挑む

傍らに置いて、一字一句、記述を確認しながら、著者の批判点や背景を説明していくわけです。さらに、文献解釈に立脚して、今度は院生自身の問題意識を論理的に組み立てて、言葉で概念化していくことになります。文献を読み、議論を重ねるという地道な作業の積み重ねですが、その過程で疑問が明らかになったり、新たな視点に気づいたりする興奮や楽しさがあります。



スポーツの本質、人や社会の ありようを探求する

— 先生の研究テーマについて教えてください。 —

私の専門の「スポーツ哲学」は、いわば、スポーツとはなにか？その本質を考察する学問と言えます。ソチオリンピックを二喜一憂しながら観戦した人も多いでしょう。また、開催が決まった2020年の東京オリンピックに、人々は大きな夢や期待を抱いています。東日本大震災においては、スポーツが人々に希望や勇気を与えました。このように、スポーツの力が現代社会では非常に大きなものになっています。そのなかで、なぜスポーツが人々に夢や力を与えることができるのか？こうした根源的な問いを追求するのがスポーツ哲学の二つの立場です。言い換えれば、人間にとってスポーツとはなにか？を考えることとなります。

視点を変えれば、逆にスポーツのほうから人や社会のありようを明らかにしていくことも、スポーツ哲学の課題です。市民マラソンの例を見てもわかるように、いまスポーツの裾野が大きく広がっています。アスリートだけでなく、普通の人々も、スポーツすること、体を使ってなにかを表現することを欲している。その背景にはなにかがあるのか。このように、現代社会や人の姿もスポーツを通して浮き彫りになってくるわけです。大きな広がりを持ち、知的好奇心を刺激する学問と言えます。

— 具体的にどのようなテーマに取り組んでいるのですか？ —

スポーツ哲学は、教育やトレーニングなどの他分野のように、トレンドといったようなものはありません。基本的に、院生がそれまでの競技経験や生き方をベースにして、それぞれの興味・関心に沿ったテーマを選んで取り組んでいます。

例えば、「美的スポーツは芸術といえるのかどうか？」というテーマで研究している博士後期課程の院生がいます。その院生は新体操でかなりのレベルの選手だったそうです。新体操は、非常に芸術的要素の高い競技です。芸術を評価するとはどういうことなのか、勝敗とは別に芸術性を評価される意味は何か。その院生は、このような自身の悩みに向き合おうとして、このテーマを選びました。表現が加わると、スポーツとしてはどう成立するのか。競技になることで厳しいルールや採点基準が設けられますが、その客観性をどう保証するのか。一方で、客観的過ぎると競技の魅力が薄れるのではないか。では、競技の魅力が薄れるとはどういうことなのか。疑問が深淵な問いへと広がっています。陸上競技や水泳など、記録だけで計られる競技との違い、芸術的要素の強いスポーツの魅力といった、本質的なことが明らかになっていくでしょう。

— スポーツ哲学の研究の進め方を教えてください。 —

スポーツ哲学の研究は、文献解釈が基本になります。前述の院生の例で紹介すれば、スポーツや芸術論についての文献を探して、院生と私で、逐一読み合わせをして解釈していきます。辞書や参考文献を



体育科学をリードする

～大学院・研究科の取り組み～

3

そして、専攻では、実存哲学に非常に興味をもっていました。人間はなぜ生きるのか、疑問や悩みを抱えた自分がいられるけれども生き続けるとはどういうことなのか、正解のない問いを考え続けていました。

そうしたことが結びついて、スポーツ哲学へ進むことになりました。なぜ競技をやるのか。なぜ生きるのか。どう生きるべきか。いま思えば、漠然ともっていた疑問が、大学時代の勉強や部活動で一気に顕在化したというのでしょうか。スポーツは気晴らし、楽しむためのものであることはもちろんですが、もっと深く人間の生に結びついているのではないかと、だんだんと学問の世界に導かれていきました。

――競技から研究へ。さらにその魅力に惹かれたきっかけは？

学位論文で、ドイツの哲学者ハンス・レンク（Hans Lenk）を研究しました。恩師と同氏の親交が深かったこともあり。ハンス・レンクは、国際的な哲学の学会の会長を務めたトップレベルの哲学者である一方、1960年ローマオリンピックの金メダリストでもありました。120冊以上の著作を発表していますが、専門の一つにスポーツ哲学を掲げており、いわばこの分野の先駆者と言えます。その思想を研究し、『H・レンクのスポーツ哲学に関する研究』というテーマで博士論文をまとめました。

ハンス・レンクは、オリンピックについても多く記述しています。オリンピックは、いまなお課題は抱えているが、それを克服する形で生き続けなければならない、人間にとつての二つの理念であり理想であると述べています。

近代オリンピックは、「近代オリンピックの父」と呼ばれるピエール・ド・クーベルタン男爵によって提唱されました。「スポーツを通して心身を向上させ、さらには文化・国籍など様々な差異を超え、友情、連帯感、フェアプレーの精神をもつて理解し合うことで、平和でよりよい世界の実現に貢献する」という、クーベルタンが提唱したオリンピックのあるべき姿（オリンピックイズム）が、これからも生き続けていくことは可能なのか。社会情勢、経済構造が時代とともに

に変化するなかで、現代のオリンピックが課題を抱えていることも事実です。理念を貫くか、あるいはどのように現状を変えていったらいいか、そういった根本思想をどうするかというのを、スポーツ哲学は提唱していかなければならないという問題意識を持っています。

日体大というオリンピックを研究するうえで最高の環境で仕事ができることを、とても素晴らしいと思っています。自分のテーマの新たな柱の一つとして、オリンピック研究を本格的にやりたいと考え、着手し始めています。ハンス・レンクの著作の翻訳なども行いながら、スポーツ、国際平和、現代の人や社会について研究を深めていく構想です。

スポーツ哲学を学ぶのに資格も免許もいらない

――日体生ならではの研究が期待できる分野ですね

文献解釈が基本になりますが、哲学そのものがないま現実に生きている日常と乖離してしまつては力を持ちません。スポーツがいまどのような状況なのかあるいは日常のなかで人間とスポーツはどうかかわっているのか、こういった理解をスポーツ哲学に携わる者は実感として持つていなければいけません。私の研究室でスポーツ芸術論を手がけている院生も、部のコーチをしたり、審判として学生の試合に対応したり、いまの競技の現状にかかわりながら研究を進めています。そこであらためて矛盾を感じながら、問題意識が明確になっていくのではないのでしょうか。その意味で、日体生はスポーツ哲学を学ぶうえで最良の環境にいると言えます。

誰もがスポーツ哲学に取り組み基盤を持つているのです。まずは、競技に情熱を注いでいる学生たちへ。自分がなぜ競技力を向上させようとしているのか、その先になにかあるのか、スポーツを通してそれを達成していく意味はなにか。そういったことに少しでも疑問を持ったならば、スポーツ哲学の研究室は大歓迎です。さまざまな切り口から、その問いを考

える場を提供します。

そして、体育教員を目指している学生たちへ。教員になって授業をすると、スポーツが得意な子ども、不得意な子どもに出会います。そういったときに、不得意な子ができるようにすることはどのような意味を持つのか、あるいはいつたいたにを教えたいのか、スポーツを教えることはどういった価値を持つのか、そんな悩みを抱いたら、すでにスポーツ哲学の入口に立っていると言えるでしょう。

スポーツ哲学には資格も免許もありません。スポーツについて、自分の生き方について、疑問や悩みを抱いたら、気軽に門をたたいてください。

――最後に、学生へのメッセージをお願いします。

日体生は熱心で知的好奇心に満ちた学生が多いと感じています。単に資格や就職のためだけではなく、純粋に知りたい、学びたいという強い意欲を感じます。スポーツは非常に知的な営みです。日々行っている努力において、ぜひ考えるところを実践してほしいと思います。スポーツが好きといいますが、好きの正体はなんでしょう。達成感、人と関われる喜び。そう考えると、スポーツは自分自身とともにプレーする仲間、見ている人たちに幸福をもたらすものと言えるでしょう。その幸福とはなにかを追求していくと、生きる意味、本質が見えてくるかもしれません。記録や成績を追求することは、もちろんスポーツをするにおいて大きな意味を持つことです。それまでの苦しい努力も報われるでしょう。一方で、困難や挫折に向き合ったとき、自分と向き合いその意味を見出すことで、強くしなやかなバネのように壁を乗り越え、人間的にさらなる成長を遂げることができるでしょう。

スポーツ哲学は世の中をも動かす可能性を秘めています。教育現場、企業、地域社会で活躍していくうえで、スポーツを軸にして、自分自身や社会についてしっかりと考えを語れることは大きな強みになるでしょうし、世の中に対してなんらかの影響を与えることもできるはずです。日体生が時代をリードする存在となるために、スポーツ哲学に興味を思ってくれた皆さんに大いに期待します。



開かれた大学を標榜する本学が、さらなる組織改革を行う。「日本体育大学社会貢献推進機構」を発足させ、地域社会はもとより全国で活躍する卒業生とのネットワークを強化し、体育・スポーツを通じた社会貢献を加速する。日体大に関わるすべての人々がその使命を認識し、協働することを期待したい。

日本体育大学の 社会貢献計画

日本体育大学は、建学の精神(理念)を「真に豊かな国家・社会を実現するためには、体育・スポーツの普及・発展を積極的に推進し、健全な心身を兼ね備えた全人格的な人間を数多く育成することが肝要である。」と掲げ、1891年に設立の日本体育会を母体とし、1893年に体育教員養成機関(日本体育会体操練習所)としてその歴史を刻み始めて以来、120年以上にわたり、一貫してスポーツを通してすべての人々の願いである「心身の健康」を育み、かつ優秀な競技者・指導者の育成を追及し続けてきました。

平成23年6月に「スポーツ基本法」が制定され、スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは全ての人々の権利であるとし、スポーツは、青少年の健全育成や、地域社会の再生、心身の健康の保持増進、社会・経済の活力の創造、我が国の国際的地位の向上等国民生活において多面にわたる役割を担うとされています。これを受けて、平成24年3月にスポーツ基本計画が策定され、スポーツの推進に関する基本的な計画が明らかとなりました。

この中では、基本方針のキーワードとして「する人」、「観る人」、「支える(育てる)人」があげられ、人々が生涯にわたってスポーツに親しむことができる環境を整えるものとする謳われています。そして、実現のための方針と具体的方策が以下の7項目によって掲げられています。

- ①子どものスポーツ機会の充実
- ②ライフステージに応じたスポーツ活動の推進
- ③住民が主体的に参画する地域のスポーツ環境の整備
- ④国際競技力の向上に向けた人材の養成やスポーツ環境の整備
- ⑤国際競技大会の招致・開催等を通じた国際貢献・交流の推進
- ⑥スポーツ界の透明性、公平・公正性の向上
- ⑦スポーツ界の好循環の創出



これらのことは、冒頭に記したとおり、本学が創立以来目標として実践・推進してきたことと合致するものであり、本学の専門分野であるスポーツ科学の研究と合わせて、社会に向けて発信・提供し続けてきたものでもあります。

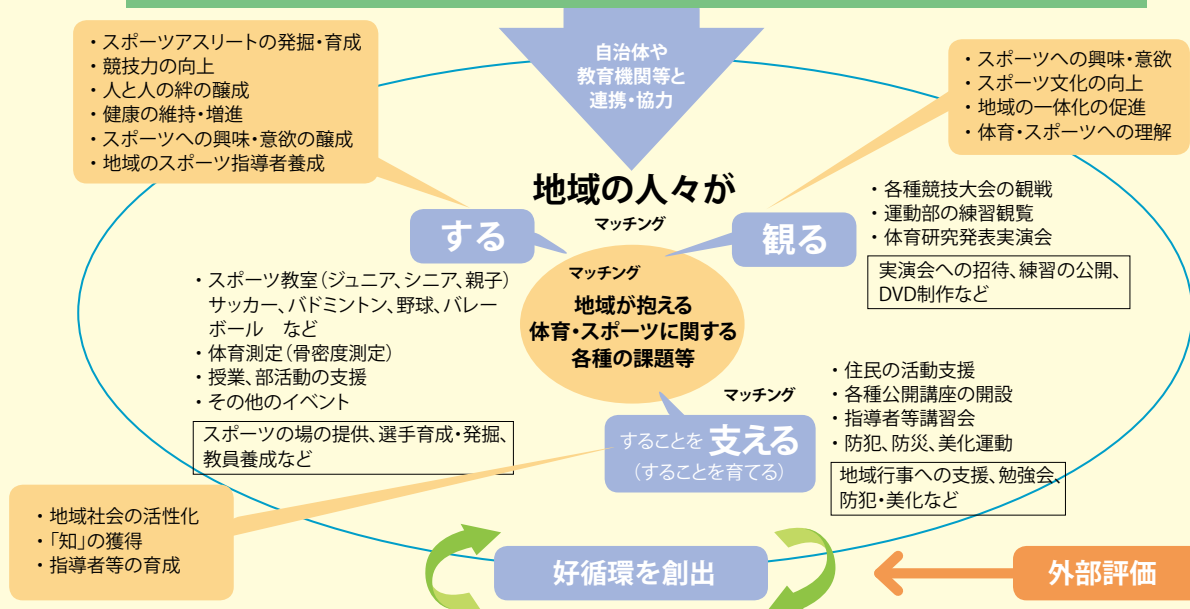
これまで、本学は地域社会との連携を推進する部署として、学長室、地域・社会貢献推進室、学生支援センターなどがあり、各自治体、NPO団体、学校等の体育・スポーツに関する各種の協力要請に基づいた貢献活動、あるいは地域住民を対象とした体力測定、さらには学校教育現場の補助、公開講座、図書館の利用開放などを積極的に展開してきました。このたび、2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催決定を受け、本学ではスポーツ基本法と基本計画が定める目標を高い次元で達成するために、地域特有の体育・スポーツに関する課題を教職員と学生が共有し、地域の自治体や各種の団体・学校等と協力してこれらの解決につながるこれまでの実績ある各種の活動をさらに発展させることを目指すことになりました。については、大学の組織改革を行い「日本体育大学社会貢献推進機構」を発足させ、地域の自治体等との連携・協力関係を構築し、さらには、本学卒業生で組織された同窓会とも連携して全国的な活動へとつなげ、地域ひいては我が国全体の活性化につながる取組みを推進します。

本学の社会貢献が次のステージへ 日本体育大学の社会貢献推進事業

実施計画と目標

地域が抱える体育・スポーツに関する課題等を本学教職員・学生が共通認識し、課題解決に向けた「する」「観る」「支える（育てる）」各種の取組みを自治体や学校等と連携・協力して推進し、当該地域の活性化と良好なスポーツ環境の構築、アスリートの発掘・育成、実践力を備えた指導者の養成を実現する。加えて、これらの活動を通じて社会人としての実践的な資質・能力が獲得可能となるカリキュラム改革を実施するとともに、研究活動により得た成果を社会に還元するなどして、課題解決に資することを目指す。

本学が地域指向で教育・研究・社会貢献を推進する意義について、学生は3学部共通科目、教員はFD、事務職員はSDにより、共通理解を図る。

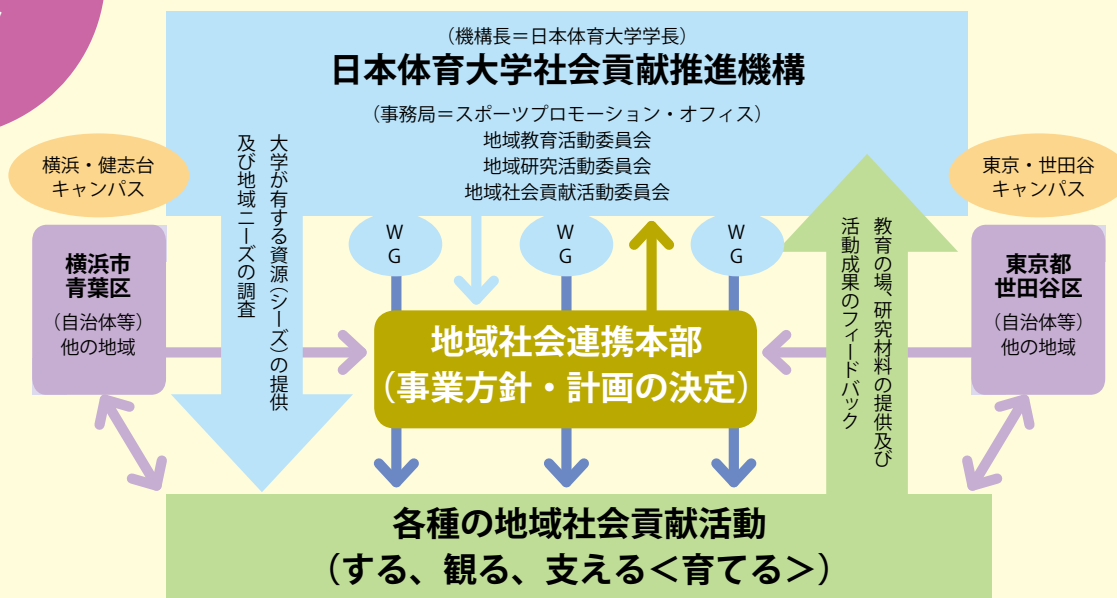


日本体育大学における取組み（教育・研究・社会貢献）

- 学生支援センターと連携した教育改革（カリキュラム改正）
- ・地域志向科目の設定、シラバスの改訂による学生教育etc
- 総合スポーツ科学研究センターと連携した研究活動
- ・健康増進、体力向上、競技力向上等に関する研究成果etc
- 日本体育大学社会貢献推進機構による活動の充実

組織と活動の仕組み

日本体育大学と自治体等で地域社会連携本部を設置して、事業方針・計画を決定する。この決定を受け、日本体育大学社会貢献推進機構が日本体育大学のキャンパス、あるいは、各地域において「する」「観る」「支える（育てる）」の活動を推進する。自治体等は、各種の活動を連携・協力支援（必要に応じて連携本部に意見等を述べる。）する。



学生支援センター 生活支援部門 調べ
情報は新聞各紙（日体大スポーツ含む）・インターネットからの抜粋

 15

TOPICS

平成25年度 入学試験結果

■日本体育大学 体育学部

平成26年3月14日現在アドミッションセンター

※()内は女子内数 ※倍率=受験者数÷合格者数

区 分		志願者数	受験者数	合格者数	倍率
体 育 学 科	A O	473 (162)	466 (160)	172 (62)	2.71
	推 薦	526 (175)	526 (175)	446 (143)	1.18
	一 般	1446 (319)	1410 (309)	181 (39)	7.79
	学科計	2445 (656)	2402 (644)	799 (244)	3.01
健 康 学 科	A O	61 (42)	61 (42)	27 (20)	2.26
	推 薦	23 (16)	23 (16)	18 (14)	1.28
	一 般	568 (188)	559 (187)	200 (68)	2.80
	学科計	652 (246)	643 (245)	245 (102)	2.62
武 道 学 科	A O	112 (24)	111 (24)	86 (23)	1.29
	推 薦	36 (7)	36 (7)	33 (5)	1.09
	一 般	68 (21)	65 (21)	31 (11)	2.10
	学科計	216 (52)	212 (52)	150 (39)	1.41
社会体育学科	A O	120 (50)	119 (50)	46 (21)	2.59
	推 薦	37 (17)	37 (17)	23 (11)	1.61
	一 般	692 (148)	676 (143)	195 (33)	3.47
	学科計	849 (215)	832 (210)	264 (65)	3.15
合 計	A O	766 (278)	757 (276)	331 (126)	2.29
	推 薦	622 (215)	622 (215)	520 (173)	1.20
	一 般	2774 (676)	2710 (660)	607 (151)	4.46
	総合計	4162 (1169)	4089 (1151)	1458 (450)	2.80

※A O入試はトップアスリートA O入試、学科A O入試、併設校A O入試、地域ブロックA O入試を含む。
 ※推薦入試は推薦入試Ⅰ期、推薦入試Ⅱ期を含む。
 ※一般入試は一般入試前期(A方式)、一般入試後期(B方式)、外国人留学生入試、飛び入学入試を含む。
 ※一般入試合格者は補欠線上合格者を含む。
 ※帰国生入試、リカレント入試は出願なし。

■日本体育大学大学院 体育科学研究科

区 分	博士前期課程		
	志願者数	受験者数	合格者数
スポーツ文化・社会科学系	4 (1)	4 (1)	4 (1)
トレーニング科学系	17 (6)	16 (5)	11 (4)
健康科学・スポーツ医科学系	9 (4)	8 (4)	4 (2)
コーチング学系	28 (7)	28 (7)	23 (6)
スポーツ教育・健康教育学系	8 (4)	8 (4)	8 (4)
合 計	66 (22)	64 (21)	50 (17)
区 分	博士後期課程		
	志願者数	受験者数	合格者数
スポーツ文化・社会科学系	3 (0)	3 (0)	2 (0)
トレーニング科学系	5 (1)	5 (1)	5 (1)
健康科学・スポーツ医科学系	4 (1)	4 (1)	3 (0)
教育・コーチング学系	3 (1)	3 (1)	3 (1)
合 計	15 (3)	15 (3)	13 (2)

■日本体育大学 児童スポーツ教育学部 児童スポーツ教育学科

区 分		志願者数	受験者数	合格者数	倍率
児童スポーツ 教育コース	A O	53 (29)	51 (28)	20 (14)	2.55
	推 薦	62 (34)	62 (34)	60 (32)	1.03
	一 般	643 (212)	627 (204)	148 (53)	4.24
	合 計	758 (275)	740 (266)	228 (99)	3.25
幼 児 教 育 保育コース	A O	55 (52)	54 (51)	17 (17)	3.18
	推 薦	49 (43)	49 (43)	26 (21)	1.88
	一 般	114 (81)	110 (78)	14 (10)	7.86
	合 計	218 (176)	213 (172)	57 (48)	3.74
合 計	A O	108 (81)	105 (79)	37 (31)	2.84
	推 薦	111 (77)	111 (77)	86 (53)	1.29
	一 般	757 (293)	737 (282)	162 (63)	4.55
	合 計	976 (451)	953 (438)	285 (147)	3.34

※A O入試は学科A O入試、併設校A O入試を含む。
 ※一般入試は一般入試前期、一般入試後期を含む。
 ※一般入試合格者は補欠線上合格者を含む。
 ※帰国生入試、リカレント入試は出願なし。

■日本体育大学 保健医療学部

区 分		志願者数	受験者数	合格者数	倍率
整復医療学科	推 薦	56 (24)	56 (24)	52 (22)	1.08
	一 般	73 (23)	70 (20)	69 (20)	1.01
	合 計	129 (47)	126 (44)	121 (42)	1.04
救急医療学科	推 薦	42 (9)	42 (9)	42 (9)	1.00
	一 般	77 (10)	69 (9)	67 (9)	1.03
	合 計	119 (19)	111 (18)	109 (18)	1.02
合 計	推 薦	98 (33)	98 (33)	94 (31)	1.04
	一 般	150 (33)	139 (29)	136 (29)	1.02
	合 計	248 (66)	237 (62)	230 (60)	1.03

※一般入試は一般入試前期、一般入試後期を含む。
 ※一般入試合格者は補欠線上合格者を含む。

■日本体育大学 体育学部 編入学

区 分	志願者数	受験者数	合格者数
I 期	110 (110)	110 (110)	103 (103)
II 期	15 (10)	15 (10)	8 (5)

■日本体育大学女子短期大学部 専攻科保育専攻

志願者数	受験者数	合格者数
49	49	49

TOPICS

第51回体育研究発表実演会が開催

平成25年11月14日(木)横浜アリーナにて開催いたしました「第51回体育研究発表実演会」は、来賓、保護者、同窓、高等学校等の学校関係者を中心に11,000名の来場者を迎え、お陰様をもちまして盛況のうち無事に終演することができました。ご来場者および関係各位のみなさま方に厚く御礼申し上げます。



また併せて、動画配信サイトにおいても、延べ36,000ユーザーからのアクセスをいただきました。抽選によりご来場いただくことが叶わなかった皆様方にも実演会の様子をご覧いただけたことは、誠に有り難く厚く御礼申し上げます。

■日体大アプリ配信開始

日本体育大学の最新情報をお知らせするアプリの配信を開始いたしました。本学で発行している各種冊子媒体の閲覧やfacebookの更新情報などがチェックできます。iOSとAndroid両方に対応しています。無料でできるので、是非ダウンロードしてみてください。

TOPICS

■日体大YouTubeチャンネル開設

平成26年1月13日(月)より、日体大YouTubeチャンネル開設いたしました。これから様々な動画を投稿いたしますので、是非チェックしてみてください。

TOPICS

■平成25年度卒業式、学位授与式について

平成26年3月10日(月)、東京・世田谷キャンパススポーツ棟メインアリーナにて、平成25年度日本体育大学体育学部 第62回卒業式、日本体育大学女子短期大学部 第60回卒業式、日本体育大学 専攻科 第43回修了式、日本体育大学女子短期大学部 専攻科 第6回修了式を挙行いたしました。体育学部、日本体育大学女子短期大学部、専攻科合わせて約1550名の学生が本学を巣立っていきました。会場には卒業生、保護者合わせて約3000名の方々にご参加いただきました。

午後からは場所を教育研究棟記念講堂に移して、大学院学位記授与式(体育科学研究科 博士前期課程 第38回学位記授与式、体育科学研究科 博士後期課程 第14回学位記授与式)が行われました。こちらでは約40名の学生が所定の課程を修了し、学位記を授与されました。

卒業式では1964年東京オリンピック、カヌー競技の日本代表選手の本田大三郎氏、元サッカー日本代表で現在サッカー解説者である松木安太郎氏に本学の発展と名声を高めることに大きく寄与した功績を讃え、特別



卒業認定証が授与されました。お二人ともに自らの活動実績や経験などをお話しになり、社会へと羽ばたく卒業生へエールを送っていただきました。

TOPICS

■平成25年度 退職者紹介

関根 義雄 (せきね よしお)

昭和43年本学卒業後、東京大学教養学部体育研究室研究生を経て、44年本学に着任。副手、助手、講師、助教授を経て、平成2年教授。健志台教学次長、就職対策委員会、財務委員会、入試検討委員会、施設・財務委員会、学友会副会長、行事委員会ほかを務める。日本体育学会、日本バドミントン協会理事、関東学生バドミントン連盟副会長、アジアバドミントン連盟副会長ほか歴任。横浜市スポーツ功労賞、藍綬褒章受賞。

秋山 庵然 (あきやま あんぜん)

昭和45年明治学院大学文学部卒業。同大学院文学研究科修士課程英文学専攻修了。梅光女学院短期大学専任講師を経て、52年本学に着任。講師、助教授を経て、平成11年教授。図書館長、体育研究所運営委員会、入学試験検討委員会、教務委員会、附属施設委員会、規程委員会、海外学術・スポーツ交流委員会ほかを務める。日本英文学会、大学教育学会、日本英語学会、実用英語技能検定試験(英語)第2次試験面接委員ほか歴任。

西條 修光 (さいじょう おさみつ)

昭和43年本学卒業後、46年本学に着任。助手、講師、助教授を経て、教授(平成4年女子短期大学、平成9年体育学部)。大学院研究科長、図書館運営委員会、紀要編集・審査委員会、体育研究所委員会、研究費等補助金調整委員会、教員資格審査委員会、大学施設構想プロジェクト委員会ほかを務める。日本体育学会、条件反射学会、日本スポーツ心理学、日本心理学学会、日本教育心理学学会、日本応用心理学学会ほか所属。テニス学会奨励賞受賞。

岩佐 克彦 (いわさ かつひこ)

昭和49年東京大学教育学部卒業。同大学院教育学研究科博士課程満期退学。宇都宮文星短期大学を経て、平成9年本学教授(女子短期大学)着任。平成25年教授(体育学部)。図書館委員会、体育研究所委員会、改組特別委員会、紀要委員会、衛生委員会、入学試験検討委員会、入学資格審査委員会ほかを務める。日本社会教育学会、情報文化学会ほか所属。

TOPICS

■名誉博士号授与式について

平成26年3月7日

(金)、東京・世田谷キャンパス記念講堂にて「日本体育大学名誉博士称号授与式」を挙行し、岡本昭氏(岡安商事株式会社最高顧問、横綱審議委員会委員)、

金正幸氏(元龍仁大学校総長、韓国オリンピック委員会会長)に日本体育大学名誉博士称号を授与しました。本学から9人目、10人目の名誉博士称号の授与となります。

岡本氏は相撲をはじめとする、日本の伝統武道の促進に尽力するとともに日朝スポーツ交流を通じてオリンピック・ムーブメントを推進し平和な国際社会の実現を図るなど顕著な功績が称えられ日本体育大学名誉博士の称号を授与されました。金氏は柔道を始めとするスポーツを通じて韓日スポーツ交流の発展に尽力するとともにオリンピック・ムーブメントを推進して平和な国際社会の実現を図るなど顕著な功績が称えられ日本体育大学名誉博士の称号を授与されました。また授与式後に金氏による「韓国武道 Sport の未来」をテーマとした記念講演が行われました。お二人ともに自らの活動実績や経験などをお話され、本学の学生も真剣な眼差しで聞いており岡本氏、金氏から本学へエールを送っていただきました。



上野 純子 (うえの じゅんこ)

昭和43年本学卒業後、東京大学大学院教育学研究科体育学専門課程修士課程(健康教育学専攻)修了。昭和49年本学に着任。助手、講師、助教授を経て、教授(平成10年女子短期大学、平成12年体育学部)。紀要委員会、学生委員会、規程委員会、教務委員会、研究費補助金調整委員会、保健委員会ほかを務める。日本学校保健学会、日本体育学会、日本小児保健学会、日本民族衛生学会、日本体力医学会ほか所属。

黒田 稔 (くろだ みのる)

昭和43年日本大学文学部卒業。同大学院文学研究科修士課程心理学専攻修了、博士課程心理学専攻単位取得後退学。昭和50年本学に着任。講師、助教授を経て、平成13年教授。健志台教学局次長、体育研究所兼任所員、保健委員会、研究所運営委員会、一般教育委員会、総合スポーツ科学研究センター構想プロジェクト委員会ほかを務める。日本心理学会評議員、日本生理・心理学会、日本睡眠学会、日本睡眠環境学会理事ほか歴任。

関口 脩 (せきぐち おさむ)

昭和44年本学卒業後、46年本学に着任。副手、助手、講師を経て、平成5年教授。就職対策委員会、在外研修選考委員会、スポーツトレーニングセンター委員会、ウエイトリフティング部男子監督ほかを務める。日本体育学会、日本体力医学会、日本スポーツ方法学会、トレーニング科学学会、日本ウエイトリフティング協会理事、アジア・ウエイトリフティング連盟委員長ほか歴任。文部省スポーツ功労者、日本トレーニング指導者協会特別功労賞受賞。

小泉 紀雄 (こいずみ のりお)

昭和45年本学卒業後、東海大学体育学部社会体育学科研究生修了。昭和46年本学に着任。副手、助手、講師、助教授を経て、平成13年教授。野外実習委員会、体育研究所運営委員会、学生委員会、山岳部部長ほかを務める。日本体育学会、日本野外教育学会、日本レジャー・レクリエーション学会、日本キャンプ協会専門委員、日本フライングディスク協会理事、日本ネイチャーゲーム協会理事ほか歴任。日本レクリエーション協会普及振興功労賞受賞。

TOPICS

■平成26年度日本体育大学(含女子短期大学部) 役職者一覧

学 長 谷 釜 了 正

【任期：平成 26 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日】

副学長(企画・管理・運営担当)
副学長(教学・学生生活担当)
学長室長

阿 部 茂 明
袴 田 大 蔵
荻 浩 三

【任期：平成 26 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日】

大学院体育科学研究科

研究科長 木村 直人

【任期：平成26年 4 月 1 日～平成28年 3 月 31 日】

体育学部

体育学部長	具志堅 幸司
体育学科長	松井 幸嗣
健康学科長	野井 真吾
武道学科長	山本 洋祐
社会体育学科長	山本 博
教養・教職科長	藤田 主一

【任期：平成26年 4 月 1 日～平成28年 3 月 31 日】

児童スポーツ教育学部

児童スポーツ教育学部長	久保 健
児童スポーツ教育学科長	岡本 美和子
児童スポーツ教育コース主任	角屋 重樹
幼児教育保育コース主任	岡本 美和子(兼)

【任期：平成 26 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日】

保健医療学部

保健医療学部長	平沼 憲治
整復医療学科長	伊藤 譲
救急医療学科長	朝日 茂樹

【任期：平成26年 4 月 1 日～平成30年 3 月 31 日】

女子短期大学部

短期大学部長	時本 久美子
専攻科長	時本 久美子(兼)

【任期：平成26年 4 月 1 日～平成27年 3 月 31 日】

附置機関

図書館長	楠本 恭久
図書館副館長	谷口 豊
健康管理センター長	入江 一憲
学生支援センター長	八木沢 誠
学生支援センター副センター長 (学習支援・キャリア支援担当)	横山 順一
学生支援センター副センター長 (生活支援担当)	鈴川 一宏
アドミッションセンター長	荻 浩三(兼)

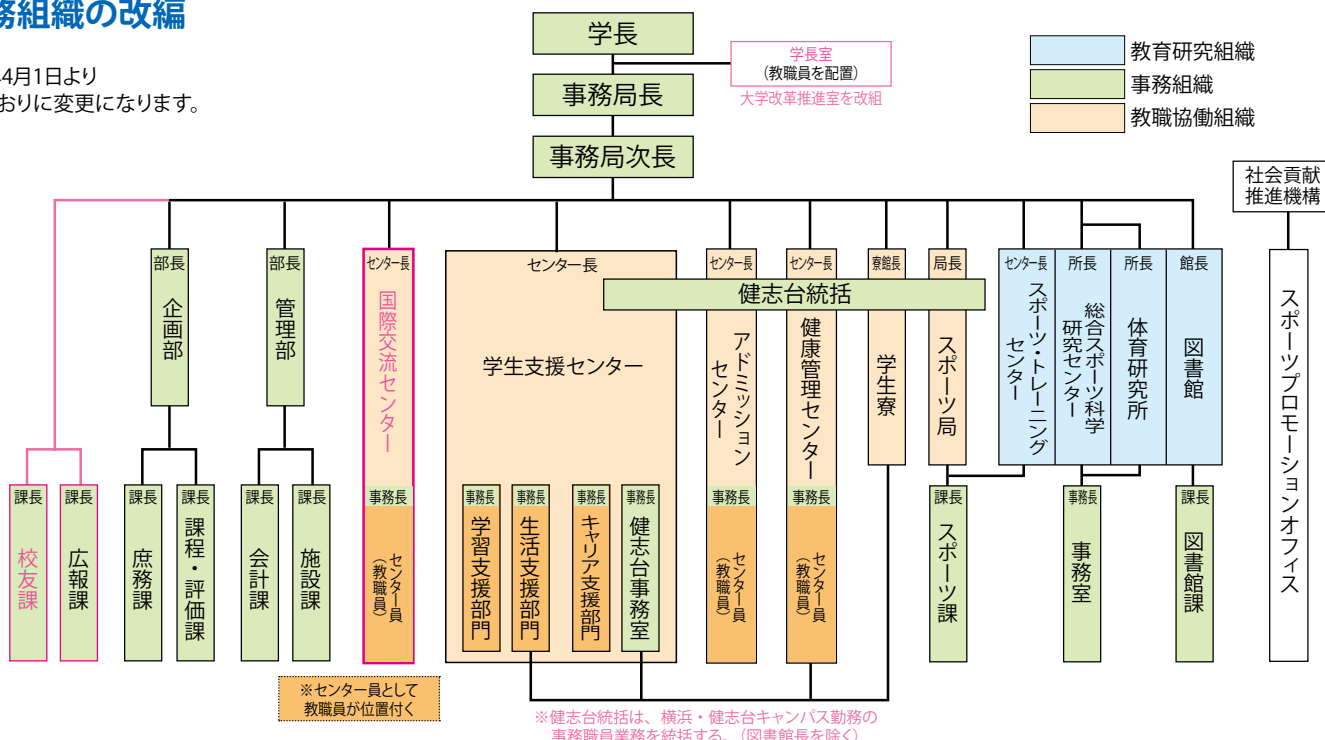
スポーツ局長	阿部 茂明(兼)
総合スポーツ科学研究センター長	中里 浩一
体育研究所長	中里 浩一(兼)
スポーツ・トレーニングセンター長	西山 哲成
国際交流センター長	荒木 達雄
国際交流センター副センター長	石井 隆憲
寮監長	水野 増彦

【任期：平成26年 4 月 1 日～平成28年 3 月 31 日】

TOPICS

■事務組織の改編

平成26年4月1日より
以下のとおりに変更になります。



■平成26年度 学年暦

	月 日(曜日)	行 事
平成 26年 2014	3 (木) 2 (水)～5 (土)	入学式 新入生オリエンテーション (履修申告、学生証手続、健康診断、学力テスト他) 在学生健康診断 他 前学期授業開始 養護実習(健康学科4年) 通常授業(昭和の日：5/7に振り替え)
	4 1 (火)～6日(日) 7日(月) 初旬～ 29日(火)	
5	7日(水) 8日(木) 下旬～	振替休日(4/29の振替) 振替休日(7/21の振替) 教育実習(体育学部4年)
6	下旬～	相談援助実習(健康学科福祉支援専攻4年)
7	12日(土)～19日(土) 13日(日)～19日(土) 13日(日)～19日(土) 13日(日)～20日(日) 13日(日)～20日(日) 21日(月) 下旬～	野外活動実習(保健医療学部) 海浜実習(体育学部2年) キャンプ実習(体育学部2年) 野外活動実習(児童スポーツ教育学部) ゴルフ指導実習(体育学科3年) 通常授業(海の日：5/8に振り替え) 介護等体験[3月末まで] (全学科2年、体育・武道学科3年) 前学期授業終了 看護臨床実習(健康学科健康教育専攻3年)
	31日(木) 下旬～9月上旬	
8	上旬～ 1日(金)～7日(木) 8日(金) 26日(火)～29日(金) 31日(日)～9/3(水)	社会教育実習(社会体育学科3年)[9月下旬まで] 補講、追・再試期間 夏季休業[9/21(日)まで] 救命救助法(救急医療学科1年) ゴルフ理論・実習(社会体育学科3年)
	9 9日(火)～19日(金) 20日(土) 22日(月) 22日(月)～10/3(金) 23日(火)	マリンスポーツ理論・実習(社会体育学科2年) 開学記念日 後学期授業開始 ホームルーム期間 通常授業(秋分の日)
10	30日(木) 31日(木) 30日(木)～11/2(日)	振替休日(9/23の振替) 振替休日(11/3の振替) 日体フェスティバル期間(準備日を含む)
	11 3日(月) 24日(月)	通常授業(文化の日：10/30に振り替え) 通常授業(勤労感謝の日：11/3に振り替え)
12	22日(月) 23日(火)～	伝統芸能実習Ⅰ(武道学科2年) 伝統芸能実習Ⅱ(武道学科3年) 比較舞踊学実習(武道学科3年) 12月授業終了 冬季休業[1/7(水)まで]
	平成 27年 2015 1 8日(木) 13日(火) 27日(火) 28日(水)～	1月授業開始 振替休日(11/24の振替) 後学期授業終了 補講、追・再試期間 [1/28～1/30、2/5～2/10]
2	1日(日)～4日(水) 8日(日)～18日(水) 中旬 中旬 19日(木)～22日(日) 23日(月)～27日(金)	平成27年度入学試験 スケート指導実習 伝統文化交流実習・外国語実践実習(武道学科3年) 伝統文化交流実習(武道学科2年) スケート理論・実習(社会体育学科3年) ホームルーム期間
	3 10日(火) 11日(水)～	卒業式 春季終業[31(火)まで]

注)実習等の期間については、変更することがあります。

■平成26年度新採用教員紹介

- ① 職名
- ② 所属学部
- ③ 所属学科
- ④ 研究室(領域)
- ⑤ 最終学歴
- ⑥ 学位

小野塚 實 (おのづか みのる)

- ① 教授
- ② 保健医療学部
- ③ 整復医療学科
- ④ 専門基礎医学
- ⑤ 東邦大学理学部生物学科卒業
- ⑥ 博士(医学、理学)

川上 順子 (かわかみ よりこ)

- ① 教授
- ② 保健医療学部
- ③ 整復医療学科
- ④ 専門基礎医学
- ⑤ 東京女子医科大学医学部卒業
- ⑥ 博士(医学)

武藤 芳照 (むとう よしてる)

- ① 教授
- ② 保健医療学部
- ③ 救急医療学科
- ④ 救急医療学Ⅰ
- ⑤ 名古屋大学大学院医学研究科
外科系整形外科学専攻修了
- ⑥ 博士(医学)

朝日 茂樹 (あさひ しげき)

- ① 教授
- ② 保健医療学部
- ③ 救急医療学科
- ④ 救急医療学Ⅰ
- ⑤ 弘前大学医学部医学科卒業
- ⑥ 博士(医学)

小川 理郎 (おがわ さとお)

- ① 教授
- ② 保健医療学部
- ③ 救急医療学科
- ④ 救急医療学Ⅰ
- ⑤ 日本医科大学大学院医学研究
科修了
- ⑥ 博士(医学)

石井 隆憲 (いしい たかのり)

- ① 教授
- ② 保健医療学部
- ③ 救急医療学科
- ④ スポーツ社会人類学
- ⑤ 日本体育大学大学院体育学研
究科修士課程修了
- ⑥ 博士(社会学)

伊藤 譲 (いとう ゆずる)

- ① 教授
- ② 保健医療学部
- ③ 整復医療学科
- ④ 運動器外傷学
- ⑤ 大阪医科大学大学院医学研究
科機能系生理学分野修了
- ⑥ 博士(医学)

久保山 和彦 (くぼやま かずひこ)

- ① 准教授
- ② 保健医療学部
- ③ 整復医療学科
- ④ 運動器外傷学
- ⑤ 放送大学大学院総合文化プロ
グラム文化情報学群修了
- ⑥ 修士(学術)

黄 仁官 (ふぁん いんかん)

- ① 准教授
- ② 保健医療学部
- ③ 救急医療学科
- ④ 救急医療学Ⅲ
- ⑤ 日本体育大学大学院体育科学
研究科博士前期課程修了
- ⑥ 博士(体育科学)

半田 勝久 (はんた かつひさ)

- ① 准教授
- ② 体育学部
- ③ 教養・教職科
- ④ 教育学
- ⑤ 愛知教育大学大学院教育学研
究科修了
- ⑥ 修士(教育)

藤田 将弘 (ふじた まさひろ)

- ① 准教授
- ② 体育学部
- ③ 体育学科
- ④ バスケットボール
- ⑤ 日本体育大学大学院体育科学
研究科博士前期課程修了
- ⑥ 修士(体育科学)

大石 健二 (おおいし けんじ)

- ① 准教授
- ② 体育学部
- ③ 体育学科
- ④ 測定評価学
- ⑤ 日本体育大学大学院体育科学
研究科博士後期課程修了
- ⑥ 博士(体育科学)

岡部 網好 (おかく づなよし)

- ① 講師
- ② 保健医療学部
- ③ 救急医療学科
- ④ 救急医療学Ⅰ
- ⑤ 駒澤大学法学部法律学科卒業

樋口 毅史 (ひぐち たけし)

- ① 講師
- ② 保健医療学部
- ③ 整復医療学科
- ④ 運動器外傷学
- ⑤ 日本体育大学体育学部武道学
科卒業

服部 辰広 (はっとり たつひろ)

- ① 講師
- ② 保健医療学部
- ③ 整復医療学科
- ④ 運動器外傷学
- ⑤ 東海大学文学部文明学科卒業

佐野 昌行 (さの まさゆき)

- ① 助教
- ② 体育学部
- ③ 社会体育学科
- ④ スポーツ経営管理学
- ⑤ 日本体育大学大学院体育科学
研究科博士後期課程修了
- ⑥ 博士(体育科学)

高井 秀明 (たかい ひであき)

- ① 助教
- ② 体育学部
- ③ 体育学科
- ④ スポーツ心理学
- ⑤ 日本体育大学大学院体育科学
研究科博士後期課程修了
- ⑥ 博士(体育科学)

村田 由香里 (むらた ゆかり)

- ① 助教
- ② 保健医療学部
- ③ 救急医療学科
- ④ 表現運動(器械器具系)
- ⑤ 日本体育大学大学院体育科学
研究科博士前期課程修了
- ⑥ 修士(体育科学)

伊東 良 (いとう りょう)

- ① 助教
- ② 体育学部
- ③ 武道学科
- ④ 相撲
- ⑤ 日本体育大学大学院体育科学
研究科博士前期課程修了
- ⑥ 修士(体育科学)

【編集後記】今回、学報の作成にあたり関わらせて頂いた2ページ。学生時代に手に取って読んでいた学報を作成する側になり感じたことは大きな想いの詰まった読み物であるということでした。また、多くの方が編集やインタビュー、撮影に携わっており、一人では仕事を進めることは出来ないということを痛感し、多くの人の支えや協力があって一つのものが完成すると実感しました。皆さまに感謝いたします。本当にありがとうございました。